

うぶすな

茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所

茨木市元町4-3

072(622)2346

[http://www.](http://www.ibarakijinja.or.jp/)[ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

切り絵『絆』

比企善彦作

「今年は明治一五〇年の佳節」

一五〇年前の明治元年三月十四日に、明治天皇は京都御所紫宸殿の御神前において新国家建設の指針となる「国是五箇条」を天地の神々にお誓いになりました。

- 一、広く会議を興し、万機公論に決すべし。
- 一、上下心を一にして、盛に経綸を行ふべし。
- 一、官武一途庶民に至る迄、各其志を遂げ、人心をして倦ざらしめん事を要す。
- 一、旧来の陋習を破り、天地の公道に基くべし。
- 一、知識を世界に求め、大に皇基を振起すべし。

右の如くそれまでの封建的な江戸幕府の政治より民主政治の第一歩を踏み出す宣言でした。これにより日本は広く海外の知識を取り入れて、外交を拡張、国内政治を充実させ、経済を成長させました。まさに日本国が大改革をなした時期でした。以後も様々なことを経験しつつ、確かな安寧を築いてきましたが、これも一五〇年前の尊き思し召しの「五箇条の御誓文」から波及しています。

平成三十一年には今上陛下の譲位が行われますが、明治天皇の御誓文は変わることなく受け継がれるでしょう。私達も「明治のこころ」をいただいで、この佳節を感謝し祝したいと思えます。

シリーズ神道
「暦」

今日、暦は私達の日常生活のうえで必要不可欠となっています。もともと暦は文化が芽生えた非常に古い時代に始まり、国が成立するや国王が民に農耕の種まきの時などを授け、指示する意味で王の専権事項でした。

まず初めに月の運行をもとにした暦が生まれました。太陽暦です。季節については、月によっては割り出せないのが太陽の運行から考察されました。これによって夏至・冬至、立春、立夏、立秋、立冬が決められていきました。このように月と太陽の運行から作られた暦を「太陽太陽暦」と呼び日本では明治時代の初頭まで使われました。

我が国に初めて「暦」が伝

来した年代は定かではありませんが、「日本書紀」には欽明天皇十四年(五五三)に百濟に対して暦博士の来朝を要請し、翌年の二月に来朝したとの記述があり、さらに推古天皇十年(六〇二)に百濟から来朝した暦博士に暦を学ばせ、推古天皇十二年(六〇四)に初めて暦を採用したといわれます。

「日本書紀」の持統天皇四年(六九〇)の条に「勅を奉りて初めて元嘉暦と儀鳳暦とを行う」とあり、この時が我が国で広く暦が頒布された始まりといわれます。また朝廷でも官制として中務省に陰陽寮を設置し、天体観測及び暦本制作を行わせました。

この中、平安時代には安倍清明を輩出するのですが中世には土御門家と改称します。「太陽太陽暦」は明治五年まで改暦をくり返しながら続

のですが、この間、中国で発達した「陰陽道」が加わり様々な禁忌、吉凶が暦の中に付加されていき人々の行動・活動が拘束されていきました。

明治五年、政府は新しい文化国家を建設すべく、西洋で発達した天文学を採り入れた「太陽暦」を採用しました。

これにより一年を三六五日とし、四年毎に一日を追加、また子丑の刻などの時を午前午後の二十四時間制に定められます。その一方、庶民の生活に深く根ざしていた春分・秋分・立春などの二十四節季は従前のおりとされたのでした。

「茨木で御皇室
献上米を栽培」

毎秋、宮中及び全国の神社では十一月二十三日に新嘗祭が執り行われます。宮中では



神嘉殿にて祭祀が斎行され、天皇陛下は斎戒沐浴の上、御親から神事をお勤めになられ、その御様子は正に恭敬無比。

新米の豊穰を皇祖神に感謝申し上げるとともに、御親から新穀をお召し上がりになります。その稲には皇祖即ち日の神の靈威がこもっており、これを聞しめす(食する)ことは皇祖の靈威を御身に呈し、大御神とご一体になられることを意味しています。天皇御即位後初の新嘗祭を特に大嘗

祭と申しますが、年々に行われる新嘗祭も大嘗祭と同様に霊威の更新、すなわち生命のあらたまりをくり返すという重大な意義のもとに、古来より連綿と受け継がれる我が国の伝統的な祭祀です。

皇祖、天照大御神が皇孫ニニギノミコトのご降臨に際して高天原の神聖な稲を天下万民の生きる糧としてお与えになられたという神話に由来します。

即ち天皇陛下の御存在は正にこの斎庭の穂(天上の稲)を地上に移し植えてこの国を「豊葦原の瑞穂国」という豊かな稔りに恵まれた国として永遠に有り続けることを祈念され、国安かれ民やすかれと常に私達国民の安寧を願っておられるのです。

この新嘗祭にお供えする新穀を栽培する献穀田は毎年宮内庁より各都道府県の一カ所



の水田が選定されます。大阪府では、今年は茨木市の篤農家が営む水田が選ばれるという栄誉に浴しました。

栽培する水田は春の種まきの頃に始まる豊穣の予祝の神事、祈年祭、田植えの頃には御田植え祭など数々の祭祀を行い、五風十雨の順調を祈りつつ大切に栽培されます。

そして今秋、宮中に参内し、「新穀」を桐箱に入れて献上されました。そして有り難くも天皇陛下より労をねぎらうお言葉を戴かれました。

黒井の清水大茶会

茨木市観光協会の毎年の恒例行事として開催される「黒井の清水大茶会」が今年も十月二十一日(土)、二十二日(日)に当社で行われました。生憎と台風二十一号の為、二日間とも雨天となり、野点は境内から参集殿内へと移され、また二日目は大雨警報が発令された為に、午後からは残念ながら中止となりました。しかし、雨の中にもかかわらず、多数の方々が茶席の他、地域物産展の即売や抽選会、又雅



楽の演奏を楽しまれました。

扱穂祭斎行

今年も伊勢神宮ゆかりの稲「イセヒカリ」を収穫する恒例の扱穂祭を去る十月二十六日に斎行いたしました。夏の日照りには水を絶やさず、秋の台風や鳥から守り大切に育



て、今年も豊作となりました。この刈り取った穂は十一月二十三日の新嘗祭に神前にお供えをし、おさがりの米は奉賛会の皆様に「御蔭米」と名付けてお頒ちしました。

「招霊(おがたま)の木」と「大王松」

当社境内、上中条社(皇大神社)横に「おがたまの木」があります。このおがたまの木は神代の昔、天岩戸にお隠れになられた天照御大神をお出ししようと神々が相談され、天鈿女命が岩戸の前で神楽を舞った時に手に持って踊ったのがこの招霊(おがたま)の木の枝で、ご神霊を招く神聖な樹木と言われています。三月中旬、純白の花が咲き誇り常緑の葉によく映えます。

一方、南大鳥居付近には「大王松」と呼ばれる葉が三本ある松の大きな木があります。マツ属の中で最も長い葉をもつことからこの名が付いたと言われています。葉が三枚ある松を「三針の松」とも呼びますが、これは弘法大師が唐から帰国する際、三針(仏教の法具)を

日本に向かって投げられ、その三針が高野山に生える松の枝にかかっていたことから、その松を「三針の松」と呼ぶようになったと伝わります。



「大王松」

奉賛会神社参拝バスツアー

恒例の奉賛会バスツアーも今回で五回目となりました。

今年十一月二十四日に晩秋の近江路・多賀大社参拝と大河ドラマ「直虎」で人気の彦根を観光致しました。多賀大社は伊邪那岐・伊邪那美の夫婦神を奉祀するところから、「生みの神様」「命の神様」として崇敬されています。権宮

司様から多賀信仰と多賀講についてご講話いただき、また豊臣秀吉公が母大政所の病氣平癒祈願への感謝のための寄進により建立された書院を見学させていただきました。その後、本殿において正式参拝させていただきました。次に彦根に移動し、昼食の後、彦根の彦根城博物館で催されている「直虎展」を見学、紅葉の彦根城下を散策、車窓から見る紅葉も美しく、秋を満喫した一日でした。



これからの行事予定

- ◆越年祭 十二月三十一日
- ◆歳旦祭 一月一日 午前十時
- ◆十日戎祭 一月九日～十一日
- ◆御火焚(とんど) 祈禱木奉焼祭 一月十五日
- ◆節分祭 鎮魂星祭 二月三日
- ◆紀元祭 二月十一日
- ◆初午祭 二月七日
- ◆人形奉焼祭 四月八日
- ◆春祭(祈年祭) 奉賛会厄除安全祈願祭 四月十八日
- ◆大祓 茅の輪くぐり神事 六月三十日